

1 学校で設定した「令和3年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 「真の学力」の育成を図る授業の工夫・改善。
さいたま市『アクティブラーニング』型授業の実践。「よい授業」の4つの因子を活用した授業の推進。タブレットを活用した授業の一層の推進及びタブレットの持続可能な使い方の確立。
- (2) 地域と連携した子どもの健康と命を守るための諸活動の充実
安全点検の確実な実施。食物アレルギー対応の徹底。救命救急講習や心肺蘇生法実習の実施。学校医や薬剤師との連携。「心と生活のアンケート」「教育相談」の着実な実施と活用。
SCやSSWとの連携。「欠席状況調査」を活用した欠席（出停含む）3日での初期対応の徹底。いじめの早期発見。見沼小いじめ防止基本方針に関わる研修。
- (3) コミュニティ・スクールの一層の推進及び地域や保護者との連携
合言葉「地域は屋根のない学校だ」の浸透（横断幕、ホームページ、学校だよりのバナー）。
「ゆめ」を育む地域講師の発掘。ホームページ、学校安心メール、アンケート機能の充実。
コロナ禍における授業参観や行事の工夫。
- (4) グローバル社会で活躍できる豊かな人間性の育成
子ども宇宙プロジェクト（夢を持った写真を宇宙ステーションに届ける）、天体観望会、未来くる先生、オリンピック給食、グローバル・スタディ、GIGAスクール等、目指す児童像「世界と向き合い、ゆめをもち、発信力のある見沼っ子」を実現するために夢や世界に目を向ける活動の積極的な実施。

2 評価結果について

- ・児童用アンケートにおいて、「将来の夢がある」の項目は89%、「世界や外国について興味がある」の項目は78%が肯定的な回答をしている。
- ・「よい授業」集計結果では、「授業マネジメント」「基礎アップ」「授業スキル」「児童生徒の活動」に全項目について、学校平均が第1回よりも第2回でポイントが上昇していた。昨年度と比較しても同様に、全項目でのポイント上昇となっている。日々の取組が着実に成果を上げていると考えられる。
- ・「学校の授業はわかりやすい」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合が98%、保護者も90%と昨年度同等の数値であった。「学校は楽しい」の項目においては、肯定的な回答が児童保護者ともに95%と昨年度以上の数値であった。
- ・「GIGAスクール構想の推進に努めているか」の項目では、保護者が90%、児童が95%の肯定的回答となっている。エバンジェリストが中心となって様々な取組を行っていることが、結果に表れている。
- ・「いじめや悩みの適切な対応」の項目において、児童の肯定的回答は96%、保護者が90%（「わからない」と回答したものを除く）となっている。しかし、保護者の「わからない」と回答した割合が15%を占めていることから、今まで以上に学校の取組等を発信していく必要があると考えたと同時に、児童や保護者から十分に話を聞き、早期発見・早期解決に繋げていけるようにする
- ・「情報発信」96%、「地域・保護者対応」89%、「学校公開関係」96%と、どの項目においても肯定的な回答が多くなっている。「コミュニティ・スクール」の認知度は76%にとどまっている。学校運営協議会委員は多方面で活躍してくださっているが、昨年度に引き続き、コロナ禍における活動制限等の影響もあると考える。
- ・「学校設備の安全配慮や環境づくり」における3項目においても、保護者は90%前後の肯定的回答となり、昨年度同等である。例年上がっていたトイレについての意見も昨年度末に改修されたこともあり全くなかった。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・「真の学力」の育成を図るため、日々の授業の工夫・改善を継続して行っていく。同時にタブレットを効果的に活用するための研修も積み重ねていく。また、「よい授業」の4つの因子も意識した授業づくりを展開していく。
- ・児童の心に寄り添った対応がいつでもできるように、今後も相談しやすい環境づくりや教職員間の情報共有を確実にやっていく。生徒指導や教育相談に係る研修も適切に実施し、教職員の適切な対応の共通理解も図っていく。
- ・コロナ禍であるため、難しい面もあるが、コミュニティ・スクールを中心として地域の人材を活用した教育課程の作成を推進していく。地域の優れた人材を教育課程に取り入れることで、児童にとってよりよい教育へとつなげていけるようにする。
- ・目指す児童像に関わる「世界や外国について興味がある」の項目においての肯定的回答が低いことから、児童が世界により興味をもつことのできる取組を検討し、実施していく必要がある。